



今井林業による社会貢献活動(上)と多田塗装工業による社会貢献活動(右)

地域の役に立ちたい 3社による社会貢献活動



辻谷建設による社会貢献活動

7月18日には、(株)多田塗装工業(多田照征代表取締役)の皆さんが、泉ふれあいセンター駐車場のライン引きを行いました。同社による社会貢献活動は、砂湯駐車場や道の駅駐車場、屈斜路研修センター駐車場のライン引きなど、数年前から行われています。この日は、従業員6人が参加し、丁寧な作業を行いました。

辻谷建設(株)辻谷智之代表取締役の皆さんが6月25日、9〇〇草原で社会貢献活動を行いました。地域に貢献したいと行っているもので、今年で4年目です。この日は、同社の従業員や関連会社の従業員など、25人が参加。現在使われていない放牧区域の支柱の撤去や、小屋の移設を行い、景観がとよくなりました。7月2日には、今井林業(株)伊藤喜美雄代表取締役の皆さんが、社会貢献活動の一環として、奥春別小学校の学校敷地の環境整備を行いました。折れる危険性のある木々の高枝払いを丁寧に行い、子どもたちも安心して学校の周りで元気いっぱい活動していました。

摩周湖畔でのプランター設置(右)と日の出ハイパス花壇整備(下)



地域を花でいっぱい 各地で環境美化活動



摩周駅前広場花壇整備事業実行委員会(根津文博委員長)の皆さんが6月16日、JR摩周駅前の花壇整備を行いました。摩周湖観光協会や弟子屈町商工会、弟子屈建設業協会などで構成する団体です。今回は約40人が参加し、サルビアやマリーゴールドなどを植えました。6月19日には、弟子屈町花いっぱい運動推進会(会長・有岡永機商工会青年部長)などの皆さんが、国道243号沿い鈴蘭地区交差点付近で、花壇の整備と植栽作業を行う「弟子屈町花いっぱいフラワーロード」事業を行いました。商工会青年部・女性部などが中心となって組織し、2005年から同事業を行っています。この日は約70人が参加。10月までの毎月1回、除草や清掃なども行います。6月24日には、摩周湖世界遺産登録実行委員会や弟子屈建設業協会などでつくる町づくり団体「ふれあいの町ボランティア協議会」の皆さんが、道道屈斜路摩周湖畔線でプランター設置を行いました。摩周湖を訪れる観光客を花で迎えようと。毎年行っているものです。ペゴニアをプランターに植え込んだ後、摩周湖への上り口付近の沿道に設置しました。6月27日には、日の出自治会の皆さんが、国道391号から摩周駅前に向かう交差点のロータリーで花壇整備を実施。ペゴニアやマリーゴールドなどを丁寧に植えていました。

町の話



町の話

町の話



町の話

エコパスポートが半額に!

8月開始 町民限定モニター乗車!!

「弟子屈2 days エコパスポート」の町民モニター乗車を8月から開始します。

アンケートにご協力いただけることを条件に、エコパスポートが半額でご利用いただけます。(お1人1回のみ)

詳しくは、必ず事前にお問い合わせください。グループや団体などでご利用の場合は、時期やバスの乗車定員などによりご利用いただけない場合がありますので、日程などを決める前に必ずご相談ください。

▶モニター料金/大人 500円(通常1,000円) 子ども 250円(通常 500円)

お問い合わせ先/役場企画財政課環境室環境政策係 ☎482-2913(課直通)まで。



摩周駅前での出発式(上) 出発式終了後、摩周湖バスの第1便が出発(左)

エコパスポートで 環境に優しい旅を

観光交通実証運行スタート

30人が出席。観光交通実証運行の開始を祝いました。エコパスポートを利用した観光交通実証運行は、昨年引き続き2回目です。エコパスポートは大人1千円、子ども(小学生)500円で、JR鋼網本線の摩周く美留和く川湯温泉間、町内路線バス、摩周湖バス、屈斜路バスが2日間乗り放題(乗り降り自由)というもので、公共交通機関を利用した環境に優しい旅の提案と、地域公共交通の活性化を目指します。昨年は、約2千200人の方に利用いただき、好評を得ました。今年も、10月11日(月)までエコパスポートの販売を行います。エコパスポートは、JR摩周・川湯温泉両駅内のエコパスステーションのほか、(株)ツリリズムでしかがでも取り扱っていますので、皆さんもぜひ、利用してみませんか。

弟子屈2 days エコパスポート運行初日の7月17日、JR摩周駅前で行われた出発式が行われました。出席式には、徳永町長や根津文博摩周湖観光協会長など関係者



7月10日に弟子屈消防署で職業体験を行う学生たち



わたしたちのこと 知ってください

師友塾による音楽会



音楽会で歌声を披露する師友塾卒業生(右)、パネルディスカッションで教育について語り合う参加者(下)

不登校生や高校中退者などを支援するフリースクール「師友塾」(大越俊夫塾長の元塾生による演奏会とパネルディスカッション)が6月27日、摩周観光文化センターで行われました。町内で通信制高校を開校することを検討している同塾が、教育理念や指導実績などを知ってほしいと開催したものです。卒業生が在学中に学んだ合唱や楽器演奏を披露したほか、桐木茂雄弟子屈町商工会長をコーディネーターに、大越塾長と徳永町長、師友塾町民応援代表の上村保範さんが、同塾が築く教育についてパネルディスカッションを行いました。同塾では1991年から毎年、同塾からアメリカに留学している学生の夏季合宿を町内で行っていて、町民の皆さんとも交流を重ねています。今年も、合宿中の学生50人が、職業体験として弟子屈消防署で放水体験などを行いました。師友塾では、町の雄大な自然が教育に効果があるとして通信制高校の開校を検討しています。計画では、本部を摩周観光文化センターに設置。定員は単位制・通信制が900人、高卒者を対象とした専攻科が400人で、年間5日間、本部でのスクーリングが必要のため、定員が埋まると述べ、6千500人が町内に宿泊することになり、経済波及効果も期待されます。